

津

山市を中心とする美作地方は、江戸時代の後期から明治初期にかけて、宇田川家や箕作家を始めとして日本の近代化に貢献した優れた洋学者を輩出したことと知られています。

昭和50年、箕作阮甫の旧宅が国の史跡に指定され、解体復元されたことをきっかけに、郷土ゆかりの洋学者を顕彰しようという機運が高まりました。そして、昭和53年3月19日、旧妹尾銀行の建物を利用して、全国的にも珍しい洋学を専門にした津山洋学資料館が開館したのです。

以来32年にわたって、洋学に関する資料の収集や保存を行い、収蔵資料は開館時の約600点か

ら6700点と10倍以上に増加。また、特別展や講演会などを通して洋学知識の普及にも努めてきました。

一方で、増加した資料の収蔵場所不足が長年の懸案となっていました。そこで、城東町並保存地区へ新築・移転し、箕作阮甫旧宅と一体的に活用しようという計画が立てられたのです。平成20年4月に新館建設工事を着工、昨年4月からは旧館を閉館し、移転準備を進めてきました。

いよいよ3月19日、展示内容も一新して、新津山洋学資料館がオープンします。これまで積み重ねてきた歴史を生かし、さらに津山洋学を全国へと発信していきます。



資料館入り口に向かうアプローチでは、代表的な津山の洋学者の銅像がお出迎え



TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

市政アドバイザーでもある建築家・富田玲子さんの設計により、展示室だけでなく図書室やGENPOホール、菓草の小径など、皆が楽しめる空間が生まれました

